

植物と人々の博物館メールマガジン

第 102 号 2023 年 8 月 10 日発行



バジルの花が咲き始めました。急いでジェノベーゼの作り置きをしないといけません。オクラやアマトウガラシも採れるようになり、ミョウガも咲いています。炎熱の夏で、狭い庭やプランタも、水やりが少し大変です。

そんな中でも、佐野川の雑穀畑では、キビとアワが開花しています。さすがに半乾燥地起源の C₄ 植物ですね。早魃に強いです。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

国際雑穀年は日本で見捨てられてきた雑穀ほか在来作物を再評価する千載一遇の最後の好機です。未来を生きる孫子たちに希望を示すために、編集子にはこの先の時間はありませんので、この企画に関しては多くの皆様のご助力を切にお願いしています。友の会会員になって、一緒に博物館づくり活動をしてくださると嬉しいです。

1. 植物と人々の博物館

○予定 開館・作業予定日：9 月 11 日～12 日、または随時未定

ドキュメンタリー映画の撮影に協力します。

資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整して開館します。

担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

○報告

1) 再興について話し合いを行っています。

2) 民族植物学ノオト第 17 号は 2024 年 3 月末に発行する予定です。雑穀街道普及会始末書は書き残します。皆様も自由にお書きくださり、ご寄稿ください。

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。相当数の方々が読んでくださっています。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

2023/1/1～2023/6/30 までのサイト・アクセス数解析結果、56,200 回。

国別解析では、日本 48,842 回、アメリカ 1,524 回、インド 785 回、ブラジル 427 回、ロシア 360 回、韓国、イギリス、台湾、トルコ、インドネシアなど。

3) 電子書籍：

編集子は自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は序章から第

3章インド亜大陸の食文化までを改定して公開しました。旅行記録を公開しました。今後は雑穀の起源と伝播の仮説の検証を行うように、第9章パキスタン、アフガニスタンから、中央アジア諸国ほかヨーロッパへと進み始めて、一方で第4章南インドの雑穀文化複合をまとめています。同時に、50年の研究成果のまとめとして自選集V “Essentials of Ethnobotany”の一部公開を進めます。自選集VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

[westturkistan.pdf \(milletimplic.net\)](http://www.milletimplic.net/westturkistan.pdf)

<http://www.milletimplic.net/indiansubcont/westturkistan.pdf>

4) 公式HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp)で毎年1回7月20日頃に収録されます。すべてに記事は無料で公開しています。

5) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、「つぶつぶ」、「国際農林業」ほかをいただきました。ありがとうございます。月刊「クリンネス」へのエッセイ隔月連載は今年も続けます。去年は花の香でしたので、本年は花の色を話題にします。季刊「つぶつぶ」への連載、雑穀物語3～椎葉秀行夫妻を書きました。残念なことに、椎葉クニ子さんは6月21日に急逝されました。民族植物の知識体系の優れた伝承者を失ってとても残念です。感謝とともに、ご冥福を願います。雑穀物語4（終）～貝沢薫夫妻を準備中です。

6) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金を以前から考えていました。多くの方々からのご協力ありがとうございます。植物と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。雑穀街道普及会も含めて、費目指定でご寄付をいただくとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。説明用冊子の印刷（5刷で総計3000部）と雑穀栽培講習会の農具や肥料の経費に使用させていただいています。今後、計画が進行するようなら、クラウド・ファンディングや助成・補助も考えたいと思います。2023年度末で会計報告をするようにします。

2. 自然文化誌研究会

○報告

8月4日(金)～10日(木)、こすげ冒険学校、6泊7日、小菅村のいつものキャンプ場
○予定 詳細はホームページをご覧ください。

8月14日～24日、タイ・ベトナム環境学習キャンプ、ウタイタニ国立公園、パンダ
キャンプ 他

9月30日(土)～10月1日(日)、INCHまつり(ライブ)、30名
小菅村のいつものキャンプ場

12月下旬(23-25 or 26-28)、まふゆのキャンプ、15名
小菅村のいつものキャンプ場

3. 雑穀街道普及会：

この活動は、中川さんや編集子のような、出アフリカ古層 A 型の子孫、縄文人の末裔を自認するものは自然と共存して生業を継承し、過剰便利に抵抗して雑穀栽培を伝承してきました。縄文土器を博物館に展示することも大事ですが、先人が生きたまま毎年種子を播いて、郷土食を調理して継承してきた雑穀の種子を切らさないことにも関心を向けていただきたいと思います。かさねて、日本列島における縄文農耕の歴史、その伝統的知識体系の蓄積を絶やさないように、もう時が迫っているので、基層文化を消滅させないように切にご助力をお願いします。雑穀街道地域は縄文時代中期の勝坂土器文化圏に重なります。

簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。家庭菜園や雑穀に関するご質問にはメールくだされば、いつでもお答えします。

<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

雑穀街道普及会は下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、50年間、定点参与観察、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果(1974～2017)をまとめてあります。<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletn/jnmpilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費はありません。寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提

案普及を続けます。

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf などは下記のサイトにあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。自給農耕ゼミは引き続き開催しています。雑穀栽培会（西原）も連携しています。

内容についての連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは下記サイトにあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

○ 予定

1) 自給農耕ゼミ（佐野川）：

国際雑穀年を契機として、在来雑穀の栽培法を学び、栽培者を増やして、絶滅寸前の栽培現況を改善しましょう。そのために、遺存的栽培地を結ぶ雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請し、山村において生物文化多様性を現地保全します。プランタでも栽培できるように栽培の手引きや雑穀種子を差し上げます。栽培から、加工・調理まで実習し、また、収穫物で美味しい料理やクラフト発泡酒を楽しみましょう。

第 16 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：2023 年 8 月 27 日（日）9：00～15：00

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩

実習：キビの収穫、はさかけ乾燥。

第 17 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：2023 年 9 月 17 日（日）9：00～15：00

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩および藤野

実習：アワの収穫、はさかけ乾燥。醸造所の見学、発泡酒ピーボの試飲。

話題提供者：宮本透、木俣美樹男（雑穀街道普及会）、山口解（ジャズ・ブルワリー）

協催： NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

集合場所：上野原駅バス停 8：30 または現地近くの石楯尾神社前（周辺地図）。藤野駅の北側にある神社です。同名の神社が南にもあるので、間違えないでください。

<https://map.yahoo.co.jp/?lat=35.65645&lon=139.11944&zoom=19&motype=basic>

駐車場はあります。更衣が必要なら、近くの公民館を予約してあります。

暑いと予測されますので、お弁当、飲み物、帽子、タオルなど持参ください。

協催： NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

協力： ジャズ・ブルワリー

申込み連絡先： kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（雑穀普及会事務担当幹事）

参加費は不要ですが、活動への任意の寄付は歓迎します。

交通案内： JR 中央線／上野原駅南口からバスがある。

電車 <行き>上野原駅 甲府方面から 8：00 着。東京方面から 8：26 着
手洗いは南口下にもあります。

<帰り>上野原駅 甲府方面へ 15：59 発。東京方面へ 16：01 発

バス <行き>上野原駅 8：35 発、石楯尾神社前 8：55 着。

<帰り>石楯尾神社前 15：31 発、上野原駅 15：53 着。

更衣など施設 公民館

バス利用の方は、木俣が上野原駅南口エレベーター下でお待ちします。

雑穀街道普及会は関東山地南部地域農山村の小規模家族農耕によって伝承保全されてきた雑穀他の生物文化多様性を継承するための普及啓発活動を行い、あわせて FAO 世界農業遺産に登録申請の準備をすることを目的としている。2023 年は国際雑穀年です。これまでに行った、このゼミに関連した動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開されています。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

2023 年の自給農耕ゼミおよび NPO さいはら雑穀栽培会開催予定は添付します。

参考動画 詳細は下記のウェブサイトを閲覧ください。

[環境学習市民連合大学 \(milletimplic.net\)](http://www.milletimplic.net)

(33) [雑穀街道を FAO 世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ 連続講座第 21 回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュース レポート](#)

[\(81\) 国際雑穀記念オンラインイベント「つぶつぶ雑穀パワーフェス」第 2 回 - YouTube](#)

2) 自給農耕ゼミ（小金井）第7回

日時：10月下旬予定

3) 雑穀街道を世界農業遺産に登録申請する説明会

目的：行政担当者や地域住民に、雑穀街道の重要性を理解していただく。

日時：9月予定

場所：上野原市役所内の会議室

内容：①雑穀街道とFAO世界農業遺産登録

②ワノサト・エコビレッジと縄文リビング・ラボ

③雑穀街道沿いの雑穀栽培

④話し合い

共催：雑穀街道普及会、ワノサト・エコビレッジ、

協賛：NPO自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道地域の賛同市民団体、他関心ある方々。

参加案内先：神奈川県、相模原市、山梨県、上野原市、小菅村、丹波山村の行政担当者、賛同団体および住民ほか、関心のある方々

事務担当：雑穀街道普及会 木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

◎ 報告

1) FAO国際雑穀年のウェブ・セミナー 130人ほどの参加

7月11日に、“A Historical Sketch of Millets in Japan”で雑穀街道についても話しました。

2) 自給農耕ゼミ（佐野川）第14回、8名参加

日時：2023年7月23日（日）9：00～15：00 除草作業

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

3) 自給農耕ゼミ（佐野川）第15回 9名参加

日時：2023年8月6日（日）9：00～15：00 防雀網張り

雨がなく土壌はとても固く、防雀網の支柱建てに苦勞しました。キビ・アワの成長は良好、しかしながら、在来オカボの生育は不良、アマランサスは虫害で不良です。

4) 上野原市長との協議3回目 21名参加

日時：2023年8月9日（日）11：00～12：10

場所：上野原市役所会議室

参加者：雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO自然文化誌研究会（植物と人々の博物館）、NPOさいはら、市長他市役所ほか、合計21名、

内容：縄文リビング・ラボの提案、雑穀街道普及会の補足、上野原での活動、意見交換。

雑穀街道の説明会開催：9月、上野原市役所会議室。街道沿い市村、賛同団体、住民、関心ある方などへの参加呼びかけ。

5) DVDの紹介 「種子をつなぐ人」DVD カラー 約60分

上野原市西原の篤農、中川智さんの栽培技術を映像で紹介しています。

費用：2000 円（送料込み）

問い合わせ先：「種子をつなぐ人」映像制作プロジェクト

メール：saiharanozakkoku@gmail.com

ご注文の際は、上記のメールあてに、①氏名 ②DVD の郵送先住所 ③電話番号 ④DVD 希望枚数をご記入の上お送りください。折り返し、代金のお振込み先など詳細をメール差し上げます。なお、この DVD の上映会があります。

日時：9 月 10 日 14 時から、参加費：1500 円、

場所：上野原市西原、西原 life 体験宿したで

詳細は下記にお問い合わせください。

山梨県上野原市西原 1738

電話: 050-2018-3728

6) 西原祭り

日時：10 月 10 日予定

○2023 年開催年間計画

1) 植物と人々の博物館 自給農耕ゼミ（佐野川）

山間地畑作農耕について、雑穀栽培の基礎技能と佐野川茶の管理作業を主に学ぶ。また、雑穀の民族植物学、雑穀とその料理の起源と伝播、インドの日本の雑穀料理と発泡酒醸造を学ぶ。有機肥料のみを使用する。

講師：宮本透、井上典昭、木俣美樹男（雑穀街道普及会）、富澤太郎、中川智（雑穀栽培会）ほか。

*西原での活動も協働実習として案内する。

主催：NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、ワノサト・プロジェクトほか。

参加費不要、任意の寄付は歓迎。

申込先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男。

詳細は <http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

⑦ 10 月 1 日（日）：第 18 回 雑穀見本園収穫、防雀網片付け。

⑧ 11 月 19 日（日）：第 19 回 実習：コムギ、オオムギの播種

⑨ 12 月 10 日（日）：第 20 回 実習：麦踏み。懇談会：

⑩ 1 月日 ：第 21 回 実習：麦踏、味噌の仕込み

⑪ 2 月日 ：第 22 回 実習：麦踏、醤油の仕込み

⑫ 3 月日 ：第 23 回 懇談会

2) 上野原市西原でも NPO さいはらの雑穀栽培会があります。あわせてご案内します。ご参加ください。

お山の雑穀応援団 参加者募集中

「消えかかると地域の雑穀（キビやアワ）を、みんなで育て、食べ、学び、次世代につながる。」より多くの方と共に受け継いでいく形を作るため、2018 年から栽培に取り組んできました。コロナ渦中、活動をお休みしていましたが、形を少し変えて、

再スタートします。「雑穀を食べるのが好き」、「雑穀を作ってみたい」そんな皆様とともに雑穀を作り、地域のあちらこちらでキビやアワの穂であふれる畑が広がるのを夢見ています。ぜひご参加ください。

【年会費】3,000円（NPO さいはらの会員）

【今年の年間スケジュール】月に一度の共同作業で、雑穀を栽培します

10月1日（日）脱穀

11月5日（日）収穫祭、雑穀を食べる

* 来られる回だけの参加、途中からの参加、通して参加できなくても大丈夫です。

* 平日でないと参加できないという声もありますので、臨時で平日作業日も設ける予定です。ご興味ある方はお問い合わせください。

* 収穫した雑穀は、11月のイベントで参加者で食べます。たくさん採れた場合はびりゅう館の厨房で使います。

【申込み・問い合わせ】NPO 法人さいはら 担当：富澤太郎

メール：taro.tomisawa@gmail.com

電話：0554-68-2100（びりゅう館）

3) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画 詳細は別添付、東京学芸大学公認事業

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素美暮発泡酒）を復刻します。雑穀街道美味の新商品になることを期待します。国際雑穀年・東京学芸大学創基150周年記念として醸造します。ぜひ、ご試飲ください。

企画団体：東京学芸大学雑穀発泡酒復刻有志ほか、植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）、雑穀街道普及会

●参考資料・動画

ローカリゼーションデイ日本・分科会6（71' 25"）<https://youtu.be/Jwz64EdrT0I>
OKシード・プロジェクト学習会、雑穀街道をFAO世界農業遺産に

<https://www.youtube.com/watch?v=jucNJsWpivI>

家族農業プラットフォーム・ジャパン [FFPJ連続講座第21回](#)；[日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか](#)

つぶつぶパワーフェス 「雑穀は歴史的、風土的たからもの」[\(57\) 国際雑穀記念オンラインイベント「つぶつぶ雑穀パワーフェス」第2回 - YouTube](#)

関連動画アーカイブがあります。[環境学習市民連合大学 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ベトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>



**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

[エコミュージアム日本村](#) / [ミュージーズ研究会](#) / [トランジション小菅](#) (山梨県小菅村) :

代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

[自然文化誌研究会](#) : 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

[環境学習市民連合大学](http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html) <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真



除草・中耕、神社境内で雑談昼食会



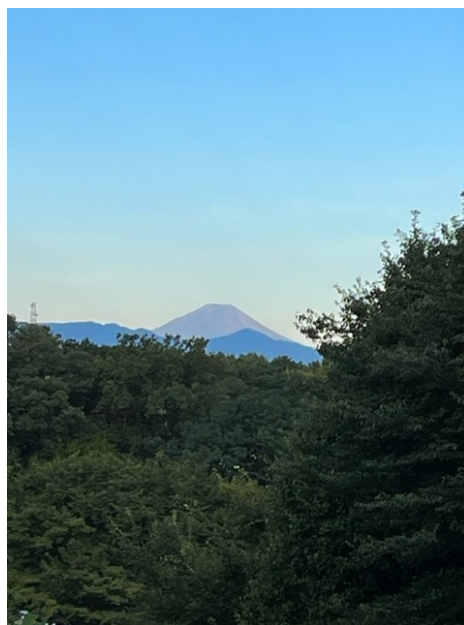
手前は陸稲在来品種ですら早魃の為生育が悪い。キビはよく出穂している。



早魃で津久井在来と借金なし大豆は発芽していない。最近の降雨で発芽を期待したい。
発泡酒に使うホップの花。



岡部さんにいただいた丹波山の地生えの半白キュウリとミョウガでつくった韓国風ピ
ックルスおよび甘酢漬



小金井のプランタ栽培の雑穀類、武蔵野公園ハケ上から見た早朝の富士山

おわりに {ひとりごと／編集子私言}

パキスタン、アフガニスタンから中央アジア諸国について、読み書きしています。シルクロードの十字路はほとんど戦乱に明け暮れてきたのです。その中でもパミールやカラコルム、ヒンドウクシュの深い山中にフンザのような隠里があり、キビヤアワが栽培されてきました。

今になって中村哲さんの書物を読んでいます。私は2歳年下ですが、とても酷似した思想遍歴を辿って来たようです。彼は医学部に行って医師になったのですが、現状を見て同時に農業土木も行い、使命感を持って灌漑施設を造りました。同様に、私も子供の頃は医師になってアフリカに行き、シュバイツァー博士の手伝いをしようと考えていました。しかしながら、医学部に行かず理学部に行き、その後、農学部に行き、教育学部に就職しました。アフリカには行きそびれましたが、アジア地域の雑穀調査に長年従事しました。環境学習原論は教育学部に就職した責任感による教育学者としての所産です。四大公害、特に水俣病の患者さんたちとの出会いも大きな影響だったのでしょう。

中村哲さんは、内村鑑三や宮本賢治とともにあり、私も同類で、生き方は阿修羅なのです。戦時のアフガニスタンやパキスタンでの活動と、平時に見える日本での活動と、世間の人々にはとても違うように見えることでしょう。彼は異国で一度暗殺され、私（＝雑穀）は母国で何度も黙殺されてきました。また、クリスチャンとアニミストの信仰基盤に違いもあるのでしょうか。しかし、この世はどこも同じ人間が暮らしています。人新世でも、苦楽、愛憎、嫉妬に羨望、差別、分断、多様性の中で、誠実に生き、ささやかな幸せに暮らすのは、パンドラの壺に希望を残しているからです。恐怖を煽る環境主義者と異なって、アニミストは自然と生業から学び考えることで、信仰を深めて、課題解決をめざし、堅実な希望を探ります。